

# 第7回阿武隈川水系河川整備委員会

## 【議事概要】

日時：平成23年12月20日（金） 13:30～15:30

### 議 事

- (1) 東日本大震災による被災状況と対応について
- (2) 台風15号による被災状況等について
- (3) 阿武隈川直轄河川改修事業再評価
- (4) 阿武隈川水系河川整備計画の今後について

### 【主な意見の概要】

#### (1) 東日本大震災による被災状況と対応について

##### 質問

阿武隈川の、特に右岸の水源地域は阿武隈高原地域に端を発しており、そこは放射線量が高い。阿武隈川の放射線汚染というのはどこかで定点観測を行う等の予定はあるのか。

##### 回答

モニタリングについては環境省のほうで一元的に行っており、一元的に公表されている。河川も定期的に定点を決めて行っている。

##### 質問

現時点で特に問題があるわけではないのか。

##### 回答

現時点では表流水の水質にはセシウム等の特に問題のある物質は検出されていない。ただ、底質等からは若干検出されている。

#### (2) 台風15号による被災状況等について

##### 質問

外水氾濫は随分減ったというのは目に見えているが、内水対策に対して、流域市町村と国交省の事業の仕分けについて、国交省、整備局としてどう考えているのか。

##### 回答

内水対策については、堤防がある程度整備されると内水被害が生じる。これは河川整備の宿命でもある。今福島県を含めて、総合内水対策という流域あるいは市町村含めた役割分担の中で、ソフト対策も含めて検討していくことになると考えている。

### (3) 阿武隈川直轄河川改修事業再評価

#### 質問

再評価の考え方について、前回は河川整備計画規模で評価して、今回は河川基本方針規模で評価しているが、被害総額を過大に評価しているようなことにならないのか。

#### 回答

河川整備計画で実施する築堤や河道掘削等の事業は、基本方針規模の洪水に対しても被害軽減効果が発揮できる事業であり、基本方針の計画規模まで効果として考慮することとなった。

#### 質問

今後、概ね 30 年間の全体事業が B/C 2.0、残事業が 2.4、当面の事業が 1.8、という数字だけを聞くと、効率の悪いものから行っている印象を与える。それなりに重要度の高いところから優先して行っているというような説明があったほうがいいのではないか。

#### 回答

現在は、二本松の水防災事業、本宮地区の量的整備等を行っている。狭窄部は家屋が少なく、他に比べて特に安全度が低い箇所であり、費用対効果は悪いが何とか他と同レベルまで安全度を上げる取組を行っている。そのため当面が 1.8 と低くなっている。

#### 質問

東日本大震災での一番の反省は想定外の外力への対応であった。150 年に一回を超えるような洪水が起こった場合にどういったマネジメントをすればいいのかなどを視野に入れた上で優先順位等をこれからは考えていく必要があるのではないか。

#### 回答

国土交通省では、東日本大震災を踏まえて、今後は想定外という言葉を使用しない方向で動き出している。想定を超える規模への対応は、ハードで全て対応するには限界があるため、ソフト対策あるいは避難、流域含めてどうするのかという枠組みの中で考える必要があると考えている。

#### 質問

今回の大震災で復旧事業が続くと思うが、そういう状況下でこの先 5 カ年の当面事業は支障なく実施できるのか。それとも災害復旧のために影響を受けることになるのか。

#### 回答

河口の堤防等は概ね 5 年ぐらいで行うことについては、災害復旧であり、支障なく実施できると考えている。また、改修計画における今後の投資の見通しは、これまでの投資規模をベースとして行っており、支障が無いという前提で検討している。支障が出てくれば、その時点で、今後の事業の見通しを含めた評価を行うこととなる。

## (2) 阿武隈川水系河川整備計画の今後について

### <東日本大震災関係>

#### 質問

岩沼市と亶理町の震災復興計画図を示されている。亶理町は河口部に荒浜という漁港の集落あり、その一部を集団移転する計画であるが、それ以外の少し上流側はその場所に残ることになる。住民の方々が関心を持っているのは、河口部の堤防を高くしたことにより移転が発生するのかということである。

海岸堤防と整合した河川堤防を整備するとあるが、河川堤防は今回従来の T.P.6.2m から T.P.7.2m としているが、荒浜周辺の河川堤防の高さが今回どれくらいになるのか、堤防拡幅による堤防敷地のための移転が出るのか、地元の方々は不安に思っている。今後の堤防計画については具体的にはいつごろ高さや幅が示される予定なのか。

#### 回答

河口部の堤防の高さは、今まさに検討しているところである。阿武隈川の海岸堤防は、高潮計画から設定されており、その海岸堤防の高さを決めた同様の外力がどこまで川を遡上するのかといった計算しているところである。できる限り早く公表し、その高さを示したいと思っている。

#### 質問

堤防の幅等が少し変わると考えていてよいか。

#### 回答

堤防が高くなる場所があるので、そういったところはその高さに見合うだけの堤防の幅というのが必要になってくる。

#### 質問

生物多様性に関して、特に河口域は貴重な動植物の生息域になっているが、今回の震災でかなり変わっている。生物の生息状況をもう一度把握し直すことが、河口部については必要なのではないか。

#### 回答

阿武隈川の河口では、震災で大きなダメージを受けている。今後復旧に当たっては河口からある一定の区間になるが、これまで実施している河川水辺の国勢調査を 24 年度早期に実施して、現状把握に努める予定である。

## <台風15号関係>

### 質問

須賀川上流に新たな洪水調整施設を整備するということが必要だと思う。河川整備が進めば当然今まで溢れていたものが河道内に閉じ込められるので、これをどう処理するのかという問題が出てくる。早急に検討するということだが、これの実現性について、具体的にあればお教えて頂きたい。

また、水位上昇が非常に速くなっている。これは整備が進んだことと、気候変動により雨の降り方が変わったことによるもので、今後ますます起こり得る。特に関係機関との連携で、9月の洪水時に情報交換や、市町村あるいは国と市町村との間の連携に問題がなかったのか。今後ますます水位上昇が速くなったとしたときに、改善すべきことはないのか。

### 回答

須賀川上流地域の新たな洪水調節施設については、平成19年3月策定の今の整備計画の中でも上流遊水地群として入っており、今回の台風15号を受け、さらに検討を進めているところである。

情報の伝達については、水防警報として水防団への水防活動を促すための通報や洪水予報を国土交通省と気象台と一緒に合意して発表しているが、合意で発表するため時間がかかるという実態もある。水防警報については、設定水位に達してから15~20分程度で出しており、これ以上短縮するのは難しいと考える。

情報を早く伝えるために、インターネットを使用した情報伝達を行っている。今後は、携帯電話への情報配信等を検討していく。

今回の出水を踏まえ、伝達時間の短縮について、更にできることはないか、検討している。

### 質問

内水被害を受けた方からすれば、避難指示が遅かったのでは、という事になる。沿川市町村への連絡はうまくいったが、住民への伝達はうまくいったのか。

### 回答

今回は水位の立ち上がり特に速かったということで、法に基づいて通知するものの他に直接自治体に電話で情報提供を行った。それで十分であったという事ではないかもしれないが、精いっぱい対応したと理解いただきたい。

自治体に伝わってからの情報伝達や連絡体系も含めて、被害の大きかった郡山市、須賀川市とも連携しながら余り時間をかけず、早急に検討したいと考えている。

### 質問

内水に関連して、須賀川、郡山の内水について調べたが、雨の降り方が変わり、水門を閉める時間が長くなっている。そのため、内水のポンプに頼る時間が非常に長く、郡山では雨がやんでから水が出てきたという話も聞いている。連絡体制の強化も必要であるが、内水ポンプの設計の見直しが求められているのではないか。

ポンプは市町村側で設置すべきということであれば、設置のための連携・指導、解析、その上

に立って、市町村協力して内水排除の対策を立てていく必要があるのではないか。

#### 回答

内水の対応については、これから自治体とハード、ソフト両面にわたって検討していくということ考えており、できるだけ早く検討したいと考えている。

#### 質問

河口部の治水対策について。津波に関しては L1、L2、超過洪水、超過津波を考慮して防災対策を講じ、まちづくりと一体的に減災対策を進めていくという方針が示されている。洪水に対しても同じように考えていかなければならないのではないか。

危険に関する情報は河川管理者が持っていると思うので、有効な情報が住民まで伝わって、行動が行われるようフォローしていければと感じる。

人の命を失わせないというのが超過洪水に対して一番優先して考えなければいけないことである。

#### 回答

危機管理体制の強化として、これまでも気候変動等として記載しているが、今回の大震災あるいは洪水を踏まえ、今回の現象を詳しく分析してより実態に即して対応できるような記載とし、今後の整備計画の中で検討していきたいと考えている。

#### 質問

洪水に対しても基本方針はワンパターンの洪水を決めているが、今回のような上流だけ計画高水位を越えることは想定していない。様々な事業や計画について、余裕を積み重ね、何か一つ破綻したら全部だめになってしまうようなことのないよう事業計画を進めて頂きたいと思う。

阿武隈川の多くの問題は、国交省の範囲内では大分解決しつつある方向にあると思うが、最上流部の状況が必ずしもうまく進んでいない。そういった中で上流まで大臣管理区間を広げることが可能なのか。

#### 質問

整備計画については、大臣管理区間と、それから県のほうの管理する区間についても整備計画を策定することになっている。通常事業を行う際にも上流区間の影響が下流にも及ぶため、上流における被害状況や整備の進め方、情報交換を行い上下流のバランスをとって進めている。必要に応じては大臣管理区間あるいは県管理区間の調整等は行える可能性はあるが、現時点では県と密に連絡をとり事業を進めている状況である。